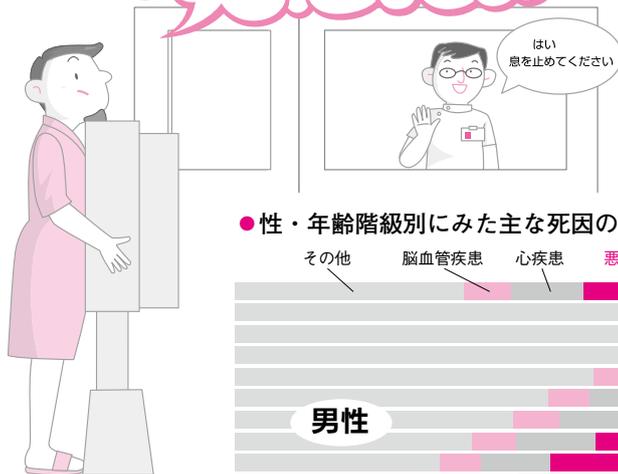


日本人の死因の第1位・がんも 予防のカギは健診です



中高年の最大の死因

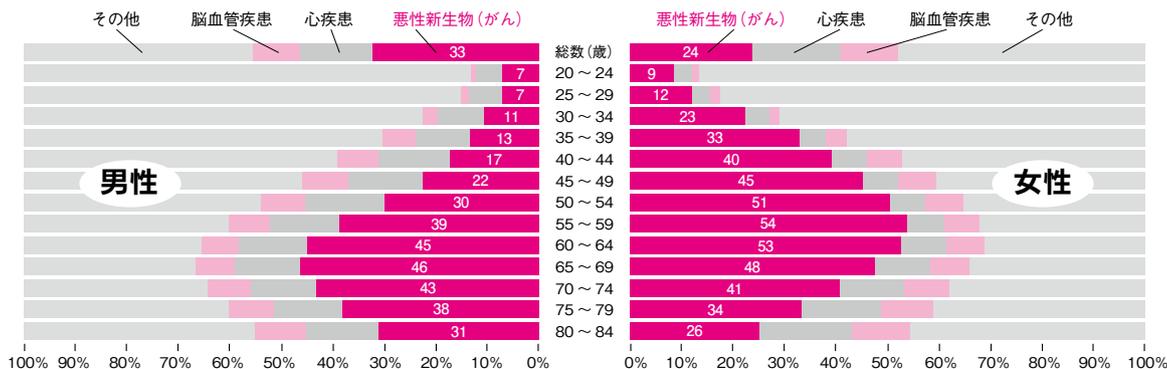
がんは、昭和56年から日本人の死因の第1位となり、人口高齢化の進展とともにその死亡数は増加しています。

がんの最大の要因は加齢で、そのため高齢者のかかる病気と思われがちですが、グラフのように、40歳代後半(女性)から60歳代のいわゆる中高年層では、がんによる死亡が50%前後を占め、2人に1人ががんで亡くなっています。

がんの発症には、喫煙、食生活、運動不足などの生活習慣も深く関係しており、肥満もリスクファクターの一つです。生活習慣を見直して、がんの予防を心がけましょう。

●性・年齢階級別にみた主な死因の構成割合

(平成23年人口動態統計月報年計)



がん検診を受けて 早期発見・早期治療を

がんは、早期発見・早期治療をすれば治る確率が高いのですが、初期には明らかな自覚症状が少ないため、気づきにくい病気です。早期発見に有効なのはがん検診を受けることです。

●共済組合では、健康診断と併せて検診を行った場合に、次の金額を助成しています。

がん検診	胃がん検診	4,000円
	大腸がん検診	1,700円
	肺がん検診	660円
	35歳以降、5歳間隔の年齢の組合員対象	
	肝炎ウイルス検査	1,900円
	50歳以上の男性組合員対象	
	前立腺がん検診	2,000円
	女性組合員対象	
	子宮頸がん検診	3,500円
	乳がん検診(超音波)	2,100円
乳がん検診(視触診+超音波)	2,800円	
40歳以上の女性組合員対象		
乳がん検診(X線)	2,700円	
乳がん検診(超音波+X線撮影)	4,800円	